

家庭で備えること

「非常持出バッグ」と「備蓄品」を区別して用意しておきましょう

次の一覧を参考に、家族の状況に応じて品物を変更するほか、優先順位を決めて内容や数量を工夫しましょう。(疾患、アレルギー対策、ペット用品(p.29参照)など)

▼避難するときに持ち出す必要最小限の「非常持出バッグ」



▼在宅避難やライフライン(電気・水道・ガス)が止まった場合に備え自宅等に蓄えておく「備蓄品」



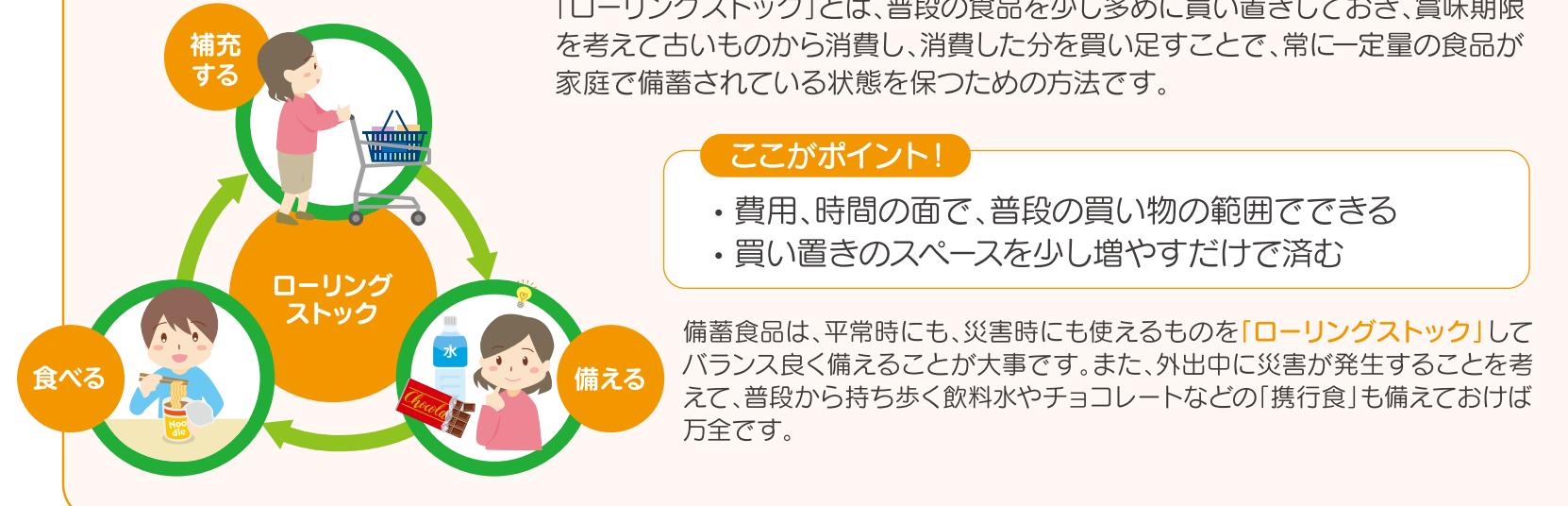
ローリングストックを活用し、1週間分以上の備蓄をしましょう。

「ローリングストック」とは、普段の食品を少し多めに買い置きしておき、賞味期限を考えて古いものから消費し、消費した分を買い足すことで、常に一定量の食品が家庭で備蓄されている状態を保つための方法です。

ここがポイント!

- ・費用、時間の面で、普段の買い物の範囲でできる
- ・買い置きのスペースを少し増やすだけで済む

備蓄食品は、平常時にも、災害時にも使えるものを「ローリングストック」してバランス良く備えることが大事です。また、外出中に災害が発生することを考えて、普段から持ち歩く飲料水やチョコレートなどの「携行食」も備えておけば万全です。

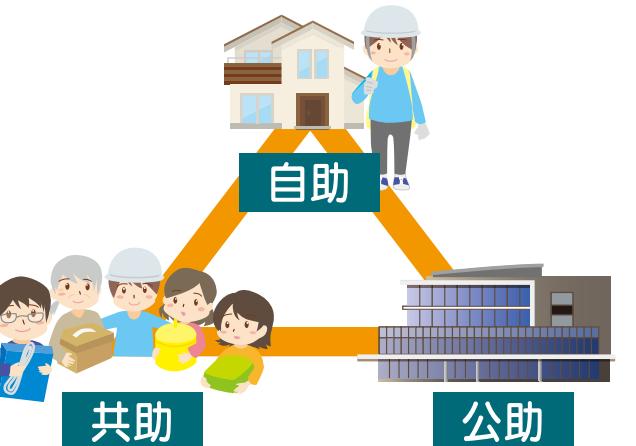


地域で備えること

平常時にしておくべきことを確認しましょう

自主防災会

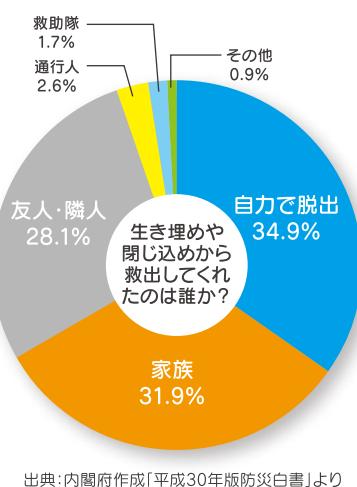
町には、住民の自主的な「共助=自分たちの地域は、自分たちで守る」防災組織である「自主防災会」が行政区ごとあります。防災備蓄・資機材の整備、避難行動要支援者や地域の危険箇所の把握、防災知識の普及啓発、防災訓練といった平常時の自主防災会活動に進んで参加しましょう。



阪神・淡路大震災では、約65%が家族を含む「自助」、約30%が友人・隣人による「共助」によって救出されています。

行政や消防などの「公助」も、皆さんを助けるために全力を尽しますが、現場がどのような状況で、だれが救助を必要としているのか、被害の最前線の状況を最も把握し、最も早く対応できるのは、同じ地域に住む皆さんです。

※町では、地域の皆さんのが防災の基礎知識を身に付けるための「防災リーダー・災害ボランティアコーディネーター養成講座」を開催しています。



安否確認フラッグ

このフラッグは、次の救助へ進む信号旗です。町民は「一家に一旗」フラッグを必ず備えてください。フラッグの掲示により、その家にいる方の無事を地域の方や救助隊に、いち早く知らせることができます。これは、助けを必要とする次の場所へ、タイムロスなく救助に向かうことにつながります。

安否確認フラッグが、あなたや家族と近所の方のいのちの懸け橋になります。

■問い合わせ先 防災交通課



ひとはな
一家に一旗
自宅にいる方が全員無事ならフラッグを玄関先等、屋外の目立つ場所に掲示しましょう。

要配慮者への対応

高齢者

体力の低下、要介護などで自力で動けない場合があるため、積極的に声掛けをしましょう。認知症などで危険の察知や状況判断が困難な場合もあります。



乳幼児・妊娠婦

子どもを抱えての避難は大変危険です。落下物や転倒に配慮し、手助けをしましょう。また、おむつ交換や授乳、着替えなどのため、プライバシーを確保しましょう。



障がいのある方

危険の察知や状況判断が困難な場合があり、やさしく声掛けし、落ち着いて付き添うようにしましょう。相手の希望を丁寧に聞くため、コミュニケーションの方法を工夫しましょう。



外国人向け災害情報提供アプリ
「Safety tips」



iPhone用 Android用

避難行動要支援者登録制度

要配慮者の内、自宅で生活し、家族の支援が難しく災害時に自力で避難することが困難な方を「避難行動要支援者」といいます。ご本人の申請による避難行動要支援者名簿を作成し、自主防災会、民生児童委員、半田消防署阿久比支署、半田保健所と共有しています。

避難行動要支援者名簿の情報

氏名	住所	性別	生年月日
緊急連絡先	通院先	など	



■問い合わせ先
防災交通課、住民医療課、ふくし課

※詳しくは 阿久比町 避難行動

検索